新技術等　申請資料（１／５）　表紙（概要）

		登録No.	c-26019
技術の区分	□１．県内産技術　□２．推奨技術　■３．その他技術（県内産技術、推奨技術　以外）	番号：	3
	⇒（１．県内産技術の場合）開発拠点所在地 ※開発拠点が県内か（本店・研究所・工場OK、営業所のみはNG）	開発拠点所在地：	
	□1.工法　□2.機械　■3.材料　□4.製品　□5.その他	番号：	3
新技術等名称	コンクリート表面含浸保護工法（細孔充填工法）「ポアセイバー」	収受受付年月日	2026/3/19
		処理区分	活用技術
ｷｬｯﾁｺﾋﾟｰ	無機系無溶剤1液型超高耐久コンクリート保護材	開発年	2024年
概要（簡潔に箇条書きとする）	コンクリート表層部の細孔を無機系の高分子樹脂で閉塞し保護する工法 ・紫外線の影響を受けないため、その効果は　理論上半永久的に継続する。 ・コンクリートと一体化しているので、剥離しないという特徴も有する。 ・中性化・塩害抑制率100％		
配慮事項（県の地域特性等）	■１．老朽化対策　□５．軟弱地盤対策 □２．安全対策　□６．その他 □３．防草対策 □４．省人・省力化	番号：	1

NETISへの登録状況	工種区分（レベル1，2まで記入）	登録年月日	登録番号	評価結果
	道路維持修繕工-橋梁補修補強工	令和8年1月26日	KK-250072-A	事後評価未実施技術

新技術等の効果						
従来技術名：	表面被覆工法					
1.経済性	■1.向上（52.62％）	□2.同程度	□3.低下（　％）	番号：	1	52.62%
2.工程	■1.短縮（67.79％）	□2.同程度	□3.増加（　％）	番号：	1	67.79%
3.品質・出来型	■1.向上	□2.同程度	□3.低下	番号：	1	
4.安全性	□1.向上	■2.同程度	□3.低下	番号：	2	
5.施工性	□1.向上	■2.同程度	□3.低下	番号：	2	
6.環境	□1.向上	■2.同程度	□3.低下	番号：	2	
7.その他	□1.　（　　）			番号：		

開発体制	□1.単独 ■2(1)共同研究(民民) □2(2)共同研究(民官) □2(3)共同研究(民学)	番号：	2(1)
開発者名	(株)アールシージージャパン、岡三リビック(株)、沖縄リビック(株)、RCGインナーシリカ協会		

問合せ先（所在地が県内or県外を必ず選択）			
技術 □1.県内 ■2.県外 2	会社名：株式会社アールシージージャパン 担当部署： 担当者名：薬師　淳	住所：大阪市中央区内本町1丁目2番13号谷四ばんらいビル1階 TEL：06-6360-4420 （内線） FAX：06-6360-4402 E-mail：k-rcg777@tiara.ocn.ne.jp	
営業 □1.県内 ■2.県外 2	会社名：株式会社アールシージージャパン 担当部署： 担当者名：幸前　有起	住所：大阪市中央区内本町1丁目2番13号谷四ばんらいビル1階 TEL：06-6360-4420 （内線） FAX：06-6360-4402 E-mail：k-rcg888@wonder.ocn.ne.jp	

施工実績	県内現場	0	件　←自動計算のため入力しないこと

新技術等のＰＲ			
当該新技術等に関する説明会・現地見学会等の開催の可否（県内開催に限定）			
■1.発注者側の希望日・希望場所で開催可能			
□2.開発側で日程等を準備する。			
□3.実施しない（県内での開催は不可、又は個別に対応する、など）		番号：	1

新技術等　申請資料（２／５）

新技術等名称	コンクリート表面含浸保護工法（細孔充填工法）「ポアセイバー」	登録No.	c-26019

（特　徴）

コンクリート表層部の細孔に特殊シリコーン化合物を主成分とした無機系無溶剤1液型の含浸材を塗布することで細孔を閉塞し、コンクリート表面を保護する。
・紫外線の影響を受けないので、その効果は理論上半永久的に継続する。
・コンクリートと一体化しているので、剥離しないという特徴も有する。
・中性化、塩害抑制率100%。（ポアセイバー標準タイプ）

（施工方法）

①下地処理
・設計図書に基づき下地処理・ひび割れ補修工・断面補修工等が手順通り行われているか確認する。
・高圧洗浄機を用いて（コンクリート躯体）の汚れ（カビ・苔・排気ガス等）を除去清掃する。
・汚れがひどい場合はブラシ等を必要に応じて利用する。
②塗布工
・コンクリート表面が乾燥してから塗布作業を行う。（含水率8%）

（施工単価等）　□1(1).歩掛あり（標準）　■1(2).歩掛あり（独自）　□2.歩掛なし　1(2)

【施工条件】
施工内容：表面保護工事、施工地域：大阪府、施工数量：100㎡、足場条件：通常足場(地面からの施工)、施工時間：昼間施工、時間制約なし、その他：断面修復工やひび割れ注入工、防護や飛散防止等の仮設養生は含まない、使用材料：ポアセイバー標準タイプ
【積算条件】
適用歩掛（下地処理）：国土交通省土木工事標準積算基準書（令和7年度版）、労務単価：公共工事設計労務単価（令和7年3月、大阪府）、適用歩掛（塗布工）：自社歩掛、材料単価：自社単価（令和7年8月、全国共通）
【直接経費】　100㎡当り　507,300円
内訳
下地処理　1現場×110,500円＝110,500円
塗布工　100㎡×968円＝96,800円
材料費　10kg×30,000円＝300,000円

（適用条件）

①自然条件…外気温5℃以下での施工は不可
②現場条件…コンクリート表面は乾燥状態であること（ウェットタイプは、コンクリート面が濡れ色（湿り気状態）でも塗布作業可能）
③技術提供可能地域…技術提供地域については制限なし
④関連法令等…消防法および市町村火災予防条例の規制（少量危険物）

新技術等　申請資料（３／５）

新技術等名称	コンクリート表面含浸保護工法（細孔充填工法）「ポアセイバー」	登録No.	c-26019

（施工上・使用上の留意点）

・外気温5℃未満において養生期間中に含浸材料が凍結しないよう管理すること
・強風下では、飛散防止を施すこと
・使用材料は、水やシンナーで希釈しないこと
・開缶後は速やかに密封し、冷暗所に保管すること

（残された課題と今後の開発計画）

（実験等作業状況）

別添

（添付資料）

実験資料等

積算資料等

施工管理基準資料等

その他

特　許	□1.有り（番号:　　）□2.出願中　□3.出願予定　■4:無し	番号	4
		特許番号	
実用新案	□1.有り（番号:　　）□2.出願中　□3.出願予定　■4:無し	番号	4
		新案番号	

その他の制度等による証明	制度名、番号	制度名、番号
	証明年月日	証明年月日
	証明機関	証明機関
	証明範囲	証明範囲

新技術等　申請資料（４／５）　施工実績

新技術等名称		コンクリート表面含浸保護工法（細孔充填工法）「ポアセイバー」		登録No. c-26019
施工実績	実績件数　県内現場数→	0	件　県外現場数→	4
	発　注　者	工　期	工　事　名 及び 路河川等名称	工事請負者
	（記載例） 県水戸土木事務所	2003/9/1～ 2004/3/15	道路改良工事 水戸神栖線	茨城県庁(株)
県内				
県外	静岡市	2025年8月	中島西脇(扇橋)道路施設修繕(橋梁補修)工事	(株)ピア東海
	神戸新交通(株)	2025年11月	芦屋駅補修工事	神戸新交通(株)
	東日本高速道路(株)	2025年11月	高崎IC可変式道路情報版設備更新工事	星和電機(株)
	群馬県富岡土木事務所	2026年1月	冨岡神流線雄川橋5か年加速化耐震補強工事	(株)湯川工務店

実績数が多い場合は，別添としても可。なお，その際も件数についてはこの表に記入すること。

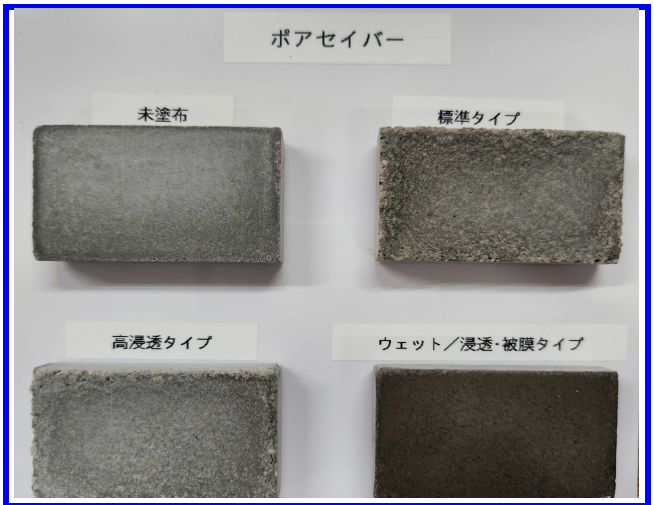
新技術等　申請資料（５／５）　（写真等）

新技術等名称	コンクリート表面含浸保護工法（細孔充填工法）「ポアセイバー」	登録No. c-26019

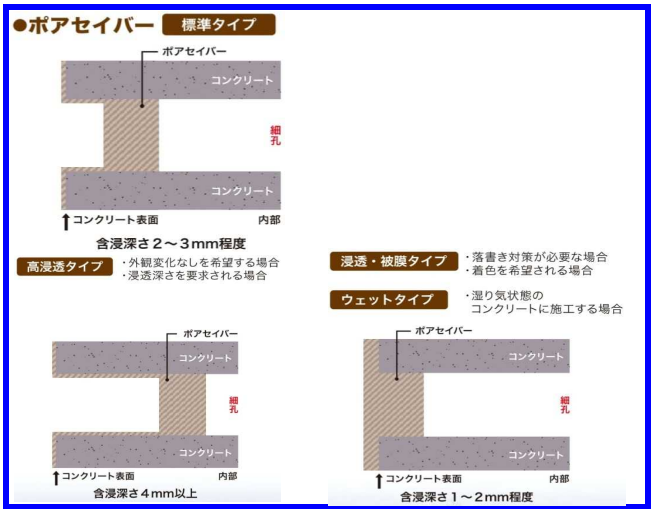
塗布状況(噴霧器)

塗布状況(ローラー)

荷姿(4kg缶、8kg缶)



外観



イメージイラスト

様式B

活用の効果　評価表

新技術名	コンクリート表面含浸保護工法(細孔充填工法)「ポアセイバー」	従来技術名	表面被覆工法

調査項目

経済性

単位あたりの関係するコスト(施工費、維持管理費等)と従来技術を使った場合の概算コストを比較する。

		従来技術		新技術		コスト差	
コスト（	100㎡ 当り)	1,070,740	円	507,300	円	563,440	円

経済性
= コスト差 / 従来技術コスト × 100
= 563,440 / 1,070,740 × 100 = 52.6 %

工程

従来技術と新技術の対応する施工サイクルについて、施工単位あたりの実施施工日数と従来技術の概算の施工日数を比較する。

		従来技術		新技術		短縮日数	
施工日数(	100㎡ 当り)	5.34	日	1.72	日	3.62	日

工程
= 短縮日数 / 従来技術の施工日数 × 100
= 3.62 / 5.34 × 100 = 68 %

品質・出来形

調査内容	評価			理由
・品質は向上するか	(+1)	0	−1	捲れ、浮き、剥がれが無し
・出来形・精度は向上するか	+1	(0)	−1	
・耐久性は向上するか	(+1)	0	−1	従来に比べ対候性が高い
・品質・出来形の管理項目は減少するか	+1	(0)	−1	
・品質・出来形の管理頻度は減少するか	(+1)	0	−1	工程が少ない

品質・出来形
= 合計点
= 3

安全性

調査内容	評価			理由
・墜落・転落事故の危険性が減少するか	+1	(0)	−1	
・重機災害の危険性が減少するか	+1	(0)	−1	
・飛来・落下物災害の危険性が減少するか	+1	(0)	−1	
・作業環境が向上するか(暗がり、騒音、狭所作業の減少)	(+1)	0	−1	臭気無し
・危険物等の取り扱いが減少するか	(+1)	0	−1	溶剤が含まれていない

安全性
= 合計点
= 2

施工性

調査内容	評価			理由
・現場での施工が減少するか	+1	(0)	−1	
・仮設工が減少するか	+1	(0)	−1	
・作業員の負担が減少するか	+1	(0)	−1	
・熟練度に依存した作業が減少するか	(+1)	0	−1	簡易作業
・施工の機械化の程度は向上するか	+1	(0)	−1	

施工性
= 合計点
= 1

環境

調査内容	評価			理由
・周辺の大気汚染・土壌汚染・水質汚染が減少するか	(+1)	0	−1	溶剤が含まれていない
・騒音・振動・粉塵・交通規制等が減少するか	+1	(0)	−1	
・産業廃棄物の発生量は減少するか	+1	(0)	−1	
・周辺の自然・生態環境・景観との調和は向上するか	(+1)	0	−1	外観ほぼ変化無し
・省エネルギー・省資源化が向上するか	+1	(0)	−1	

環境
= 合計点
= 2

※記入要領
①「経済性」「工程」は従来技術との比較を単位あたりの数量で行う。
②その他の調査内容に対する評価は3段階とし該当する番号に○印をつける。
　従来技術に比べ優れている(+1)
　〃　同等程度である(0)
　〃　劣っている(−1)
③(+1)及び(−1)に○印をつけた場合は、理由を記入する。
④減点要素とも、加点要素とも判断のつかない場合は、0に○印をつけて合計点を算出する。
⑤合計点は各項目(5つ)の評価の合計点を記入する。
⑥入力は　　箇所のみとする。

様式C

経済性比較表

新技術名称：	コンクリート表面含浸保護工法（細孔充填工法）「ポアセイバー」
従来技術名称：	表面被覆工法

経済比較する条件

【施工条件】施工内容：表面保護工事、施工地域：大阪府、施工数量：100㎡、足場条件：通常足場(地面からの施工)、施工時間：昼間施工、時間制約なし、その他：断面修復工やひび割れ注入工、防護や飛散防止等の仮設養生は含まない、使用材料：ポアセイバー標準タイプ
【積算条件】適用歩掛（下地処理）：国土交通省土木工事標準積算基準書（令和7年度版）、労務単価：公共工事設計労務単価（令和7年3月、大阪府）、適用歩掛（塗布工）：自社歩掛、材料単価：自社単価（令和7年8月、全国共通）

○新技術の内訳（直接工事費）　（100㎡当り）

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要
下地処理		1.00	現場	110,500	110,500	国交省土木工事標準積算基準書
塗布工		100.00	㎡	968	96,800	公共工事設計労務単価
材料費		10.00	kg	30,000	300,000	自社単価
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
合計					507,300	

○従来技術の内訳（直接工事費）　（100㎡当り）

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要
下地処理		1.00	現場	110,500	110,500	国交省土木工事標準積算基準書
プライマー塗布		1.00	現場	81,240	81,240	公共工事設計労務単価
パテ処理		1.00	現場	193,500	193,500	公共工事設計労務単価
中塗り		1.00	現場	322,800	322,800	公共工事設計労務単価
上塗り		1.00	現場	362,700	362,700	公共工事設計労務単価
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
					-	
合計					1,070,740	